

協働のまちづくり かわら版

Vol. 13

2009年10月発行

編集：燕市企画調整部企画政策課
〒959-0295 燕市吉田日之出町1番1号
TEL：0256-92-2111 (協働のまちづくりG)
FAX：0256-92-2110
E-mail：kikaku@city.tsubame.niigata.jp
URL：http://www.city.tsubame.niigata.jp/

燕市の協働のまちづくりの推進に関する情報
をお届けしています。

「第5回まちづくり基本条例市民検討会議」を開催しました。

(仮称)まちづくり基本条例の制定に向けた具体的な取り組みとして、「燕市まちづくり基本条例市民検討会議」の第5回目の会議を10月7日水曜日に吉田公民館で開催しました。

その内容についてお知らせします。

グループ別に議論の真っ最中！

(休む間もなく?) さあ、次のステップへ！！

朝晩肌寒ささえ感じる今日この頃、まちづくり基本条例市民検討会議では、熱い議論を重ねています。

第3回から第5回までの会議を通して、検討項目の「市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと」について検討を行ってきました。

市民参画と協働によるまちづくりを進めていくうえで、まずは現状を分析し、それぞれの場面で困っていることや、そこから見えてくる課題や問題点を掘り起こし、その解決方法や新たな仕組みについてみんなで議論してきました。

課題や問題点については、自分たちの地域の活動事例や経験など、身近な場面からいろいろな意見が出されました。さらに、それぞれの課題について解決策や仕組みを話し合い、いろいろなアイデアが出されました。

とても難しいテーマだったと思いますが、いろいろなご意見をいただき、本当にありがとうございました。

今後は2番目の検討項目について議論を行っていきますが、次回の会議に向け委員の皆さんには、またまた大きな宿題が出されました。条例を検討していくうえで、今後も難しい課題があると思いますが、みんなが集まればどんな難問難題も解決していくことができそうです。

(仮称)まちづくり基本条例の検討に関する詳しい内容は、市のホームページからご覧いただけます。

燕市トップページ > まちづくり > まちづくり基本条例のページへ！

「燕市まちづくり基本条例市民検討会議」や「協働のまちづくりかわら版」へのご意見・ご感想を募集しています。

検討項目のこれまでの検討の流れ

第3回会議

『市民と行政とのつながり(参加、連携・協力)の場面や現状』について意見交換

第4回会議

場面や現状に対する『課題や問題点』について意見交換
課題や問題点に対する『解決方法や仕組み』について意見交換

第5回会議

検討項目 燕市の「市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと」についてまとめと発表

ワークショップ

テーマ 検討項目

「市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと」

～市民と行政がキャッチボールできる方法を考えましょう～

みんなの思いや意見をカタチにまとめましょう！

今回の会議では、現状、課題、解決方法と順を追って進めてきた話し合いの内容を振りかえり、検討項目「市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと」は何かについてグループ内で話し合い、前回途中になっていた各グループの意見のまとめの作業を行っていただきました。その後、各グループで出された意見や情報をみんなと共有するため、グループ別に発表を行いました。

以下、発表順にそのまとめと発表の概要をお知らせします。



5班のまとめと発表 「市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと」

まとめと発表の概要

・現状と課題

情報伝達について、要望の伝達ルートが明確でない、はっきり示してほしい、一般市民の情報提供をいかにするか。

理解関心について、まち協への未理解問題、協力できない、関心がない。

意思決定について、町内全体に共通しない個人意見が受け入れられない、若者の意見が少ない、取り入れられていない。

さらに、自治会と行政との連携不足や行政の財政支援の不足などいろいろな意見がありました。



・まとめ

NPO 法人の情報伝達の間や活動場所を作ることにより市との一層の協働を図ることが重要です。市政への参加やまちづくり協議会への参加など、市民参画に対する理解や関心を高めることが重要です。

個人意見も受け入れる仕組みなど、意思決定へ参画する仕組みづくりが重要です。

協働のまちづくりを推進するため、行政による財政的サポートも必要となります。

4班のまとめと発表 「市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと」

まとめと発表の概要



・まとめ

市民と行政のつながりと市民参画と協働によるまちづくりについて、結論として『官民のキャッチボール』という言葉でまとめました。これは官から民、民から官へといった、お互いにキャッチボールで情報の共有をしたり、人・物・金の仕組みを共有したりしようということです。

情報伝達の仕作り…官からの情報発信だけでなく、民からも情報を出す必要があります。官民がお互いに情報提供を積極的に行い、情報共有、情報公開、情報交換など市民参画の仕組みを整備することが重要です。

人、物、金の仕作り…人・物・金の仕組みを共有した、ぶれないまちづくりが重要です。補助金等がないと何事もできないということではなく、民でもできることは自分たちで行い、その中で、足りない部分を官が補って物事を行っていかうということです。

官民のキャッチボール…まちづくりは一人ではできません。相手がいないとダメ。いろんなキャッチボールがあり、同じレベルでなくても良い。それだ球も受け止めることが重要です。

3班のまとめと発表 「市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと」

まとめと発表の概要

・現状と課題

市に対する市民の意見の伝え方が良く分からないという意見が一番多く、市の考え方が良く分からない場面が多い、周知不足で制度を知らない、情報や役割が曖昧という意見や、コミュニティ活動について、地域行事への参加が悪いなど祭やイベント等への参加の在り方についての意見がありました。

・まとめ

市民、行政、コミュニティが連携協力して役割を明確にしていったらどうかということ、市民の活動が協力連携していくには行政の情報提供、人的・財政的支援が必要ではないかということです。また、協働の推進だけでなく、行政改革及び自治体の運営やまちづくり協議会の運営見直し、職員の意識改革も必要ではないかということです。

市民参画を推進するためには、行政課題や市の施策について正確に情報を得られるよう、行政情報について学習する機会を提供し、市民も勉強したらどうかということです。一言で言えば、行政も人で、市民も人です。お互いが人ですから、人の字のようにお互いが支え合えれば協働のまちづくりは上手くのではないかと思います。



2班のまとめと発表 「市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと」

まとめと発表の概要

・現状と課題

市民の声の伝え方では、自治体に対して地域がまとまらないと声が伝わりにくい、市の制度の周知不足で意見を出す人が少ない、どこに話をして良いのか担当課が分からないなど。

市民参画の推進では、まちづくりの取り組み方には地域差が大きい、各種団体の連携不足、地域活動の内容が住民に周知されていない、また理解や参加意識が薄いなどの意見がありました。

・まとめ

市民の声をまちづくりに反映させるため、更に情報公開、広報、HP、市政情報コーナー等や公聴制度、パブリックコメント、市長への手紙、総括的な窓口の設置、周知の充実を図っていく必要があります。市民の声がどう扱われたか結果を公表することも大切。また、地域住民と行政をつなぐ自治会の役割は大きく、その役割を明確にしながら3者の意思の疎通が円滑になるルールづくりが必要です。

市民参画の推進としては、まちづくり協議会など市民活動には行政の支援が必要であり、地域単位で活動をサポートする担当職員の配置や活動資金の助成などが求められます。

協働のまちづくりの推進としては、更に各種団体の協力、全市的なネットワークの構築や市との連携を深めていく必要があります、各種団体の特色を活かし、市民とともに協働で行うことが大切です。



1班のまとめと発表 「市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと」

まとめと発表の概要

・現状と課題

思いや意見の伝え方として、間接的な制度では意見が偏る、行政の制度や窓口等が分かりにくい、伝えるための情報の不足。

まちづくりへの参加として、参加者不足、年齢や性別の偏り、参加への理解が得られない、参加するための情報の不足。

協働のまちづくりでは、市民の関心の希薄化、活動費用、自治会とまち協の役割分担、地域交流や一体化の問題、各主体でまちづくりの目標が共有されていないなどの意見がありました。

・まとめ

市民の声がより反映されたまちづくりを行うためには、市民の声なき声を拾い上げることが重要であり、そのための仕組みづくりが重要です。

市民参画をより推進するためには、参加しやすい環境づくりを考えていくこと、参加した人が気分良く参加できることなど参加しやすい雰囲気づくりが必要です。

市民と行政の協働のまちづくりをより推進するためには、地域のレベルアップを図るため、リーダーの育成を推進する活動が必要。もう一つは、それぞれ地域の特性を大切にしながら育てていく仕組みやマニュアル等をつくった方が良いのではないかとことです。



講評 (アドバイザー) 新潟大学大学院実務法学研究科准教授 馬場 健さん

リーダーの議論について

リーダーの育成という話が議論的になりましたが、どういうものがリーダーなのかということは、とても難しい話です。今の役職者も当然リーダーです。それ以外にも、これからリーダーになっていく人もいると思います。更に、議論をリードする人もリーダーかもしれません。僕は、多分ここにいらっしゃる方々がそういう役割を担っていくんだろうと思っているんです。

議論をするということは、なかなか面倒なことですが、皆さんのようにグループを通して議論を行っていくことで、議論に慣れていきます。

そういうスキルを持った人が、ここに30人以上いらっしゃって、その皆さんが自治会やまち協や地域の団体等に戻っていくということが重要であると思っています。

各班の発表についての共通項

現在、行政と住民の2つのものがどのようにつながっているのか。皆さんは、そのつながりというものに双方向性がないという話をされたと思います。

行政が伝える情報がうまく伝わっていない部分がある。逆に、行政に対して市民が伝える情報もうまく伝わっていない部分がある。

情報とうまくつながっていないがために、個人が行政に対してうまく意見を言う、若しくは行政が個人に対してうまく情報を伝えるというメカニズムが有効に機能していないのではないかとことを皆さんまとめていたと思います。

そこで、この部分を何らかの形でネットワーク化をしていくことが必要になる。これが今後やるべきことであると思います。

講評 (つづき)

お互いが支え合うメカニズム

かつては、行政と住民がつながっていませんでした。でも、1方向では、まちづくりはできなくなってきたということを皆さんは認識されているということです。

だからこそ、3班が発表していただいた、お互いが支え合うといったメカニズムが必要になってきます。そのためには、意識改革が必要になってくるというまとめもありました。また、そのメカニズムを、別の言い方をすればキャッチボールなんだと4班はまとめていたわけですが、情報だけではなく、何らかの形で行政と住民がキャッチボールをしていくということが必要になってくるということです。

今後の議論の進め方について

政策の策定段階、実施の段階、評価の段階に分けながら、行政の担う役割、住民の担う役割、燕市の場合には、その間に自治会やまち協というものがあり、その各々の役割を考えていくことが、この後重要になってくると思います。

今回、議論をしていただいて、解決の方向性は異なっていたかもしれませんが、皆さん大体同じ考えで、現状認識は近かったと思います。その共通の現状認識に立って次回以降も考えていただければ良いと思います。



あなたが今日気づいたことは？

- ・各班の発表は、すばらしくまとまっていた。
- ・各グループの発表で、市民と行政のつながりの重要性及び役割の確認が必要と思った。
- ・参加することにより、市民と行政の信頼感が出てきた。
- ・各班の発表を聞いてみて、同じテーマで会議をしても出てくる意見は班によって様々だったこと。(自分の班では出なかった、)面白い意見がたくさん出ていた。
- ・まちづくりについての難しさを改めて感じました。もっと、これからの会議の中で理解を深めていく必要があると思いました。
- ・毎回自分が考えていたこと以外にもいろいろな意見があり、行政側と市民の考えがまだまだ異なっていると思いました。

あなたが今日うれしく思ったこと、満足したことは？

- ・おとなしそうだと思っていた若手職員が堂々と発表役をこなしていたこと。色々な人が多様な経験をすることの重要性を実感しました。
- ・馬場先生の講評により、本日発表された内容がどのように生かされるのか理解できた。
- ・出席できるのが嬉しいと言って頂けたこと。
- ・皆さんの意見がまとまり始めたこと。
- ・少しずつ内容が濃くなってきている。意見が出やすい環境になっている。
- ・自分の意見も取り上げていただき、嬉しかった。
- ・発表者の熱意にカンパイ！本当にありがとう！
- ・皆さん、燕市の地域を良くしたいと懸命に考えておられると思った。

委員の皆さんの声 (ふりかえりシートより)

あなたが今日不満に思ったこと、悲しかったことは？

- ・もう少し、発表のまとめを上手くやるべきだった。
- ・ボヤボヤしていると、皆さんについて行けない。

あなたが今日、言い残したことは？

- ・自分で整理が付いていない。
- ・発表の内容をもっと掘り下げるべきだったかな？

まちづくり基本条例市民検討会議の開催日程

第6回 市民検討会議

日時：平成21年11月14日(土)9:30～

場所：分水福祉会館 1階ホール

会議はどなたでも傍聴できますので、興味のある方は、ぜひお越しください。

事務局の説明から

今回の会議では、まちづくり基本条例の検討項目の2番目に掲げた「燕市のまちづくりの主体とその役割と責務～まちづくりの主人公は誰？～」をテーマに、皆さんからグループ別にワークショップ形式で意見交換を行っていただきながら、条例素案の策定に向け、検討を進めていきます。

編集後記

毎回、ワークショップでいろいろな人の意見や考えを聞いて、驚きや発見があります。さらに、今回はグループ別に発表があり、皆さんのアイデアや発想に気付かされ、視野が広がっていく楽しさを感じています。

今回の会議では、後半部分で検討項目の2番目のワークショップを行う予定でしたが、時間が足りなくなって、次回に持ち越しとなりました。宿題をしてきた委員の皆さん、申し訳ありません！！(す)